



聴覚情報処理障害（APD）

聴覚情報処理障害（Auditory Processing Disorder: APD）とは、「聞こえている」のに「聞き取れない」「聞き間違いが多い」等、音声をことばとして聞き取ることが困難な症状を指します。通常の聴力検査では異常が発見されないこの症状は、耳から入った音の情報を脳で処理して理解する際に、なんらかの障害が生じる状態だと考えられています。

聴覚障害の場合は、音を集めて脳に伝えるまでの間に、耳の器官のどこかに何らかの障害があることで「音の聞こえにくさ」を感じます。一方で、聴覚情報処理障害は耳の機能は正常なので、音を問題なく聞くことができます。そのため、聴力検査を実施しても異常はみられません。

英国における報告では、全人口の0.5～1%が聴覚情報処理障害と推定されており、日本でも120万人程度（100人に1人）の当事者が存在する可能性があると言われています。

こんな症状はありませんか？

- ・雑音の中では話が聞き取れない
- ・聴力検査では問題ないと診断された
- ・聞き返しや聞き誤りが多い
- ・複数の人との会話や音は同時に聞き取れない
- ・口頭で言われたことを忘れてしまったり、理解しにくい
- ・早口や小さな声が聞き取りにくい
- ・話が長くなると途中から何を言っているのか分からなくなる
- ・テレビや映画は字幕がないとよく分からない



聴覚情報処理障害の方が困っていること…

- ・話を聞いていない、努力不足と誤解される
- ・質問に的外れな回答をしてしまい驚かれる
- ・雑談についていけず対人関係で孤立してしまう
- ・「うまく聞き取れない」と自己評価が低下する



1. 家庭での配慮と工夫

- ①テレビの字幕の利用、手元スピーカーの利用
- ②重要なことは繰り返し確認し、最後にもう一度伝えてもらう
- ③名前を呼んで注意を向けてから話しかけてもらう
- ④静かな場所で話をする（掃除機や水道、ドライヤー等の大きな音に注意）
- ⑤複数人での会話は、声が被らないように一人ずつ話してもらう
- ⑥口元や表情を見せてもらいながら、はっきりと話してもらう

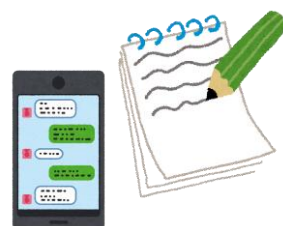
2. 学校での配慮と工夫

- ①先生の声が聞き取りやすい席にしてもらう
- ②視覚的な資料を多く使ってもらう
- ③大事なことは静かな場所で伝えてもらう
- ④名前を呼んだり、肩をたたいて、注意を向けてから話しかけてもらう
- ⑤繰り返し伝えてもらう
- ⑥椅子や机の脚にカバーをつけて大きな音を軽減させてもらう
- ⑦補聴機器を使用し、送受信機のマイクを話し手の先生につけてもらう



3. 職場での配慮と工夫

- ①周囲の人に理解を求める
- ②コピー機やエアコン稼働音等の雑音の少ない席にしてもらう
- ③リアルタイム文字変換アプリやボイスレコーダーの使用を許可してもらい、補助手段として使用する
- ④正確な聞き取りが必要となる業務（電話やインターカムを使用する業務等）が少ない部署に配属してもらう
- ⑤重要な指示は個別に静かな部屋で受けるか、メモやメール等で文字化して伝えてもらう
- ⑥補聴機器を使用する場合にはその使用に対する理解を求める



APDマーク

このマークを見かけたら
配慮をお願いします!!



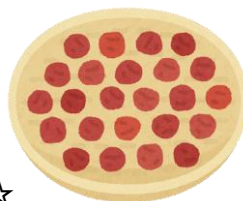
(今月のニュース担当より)

言語聴覚士の十河です。

今年も梅干しを干す季節になりました♪

今年は、13kgの梅干しを漬けて干しました!!

今年もすっばくておいしい梅干しになりますように☆



リハビリ訪問看護 きらっとテラス
TEL : 087-814-6830 FAX : 087-814-6831
営業時間：平日・祝日 8:30～17:30（休日：土日・年末年始12/30～1/3）

